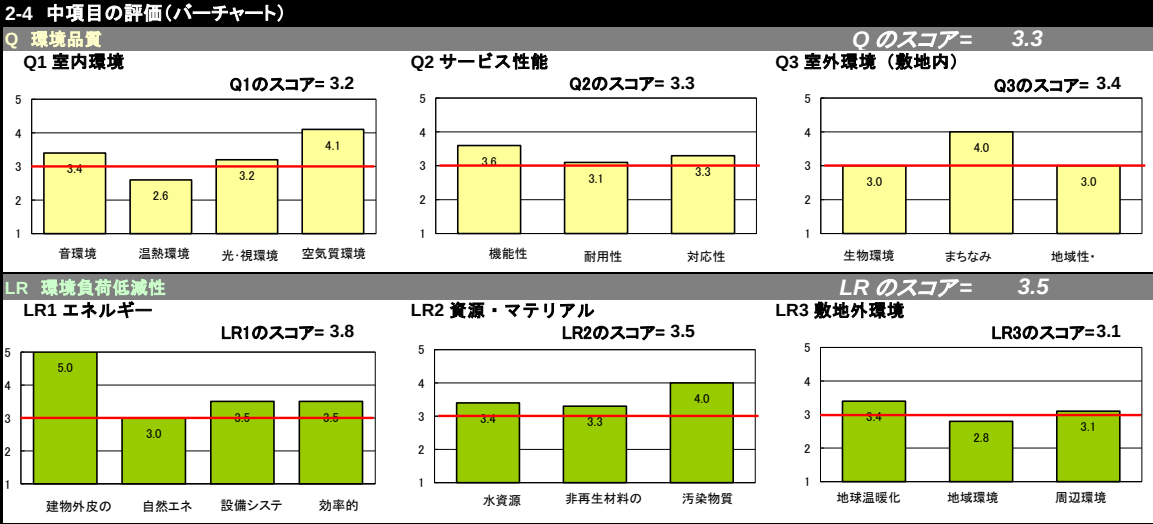
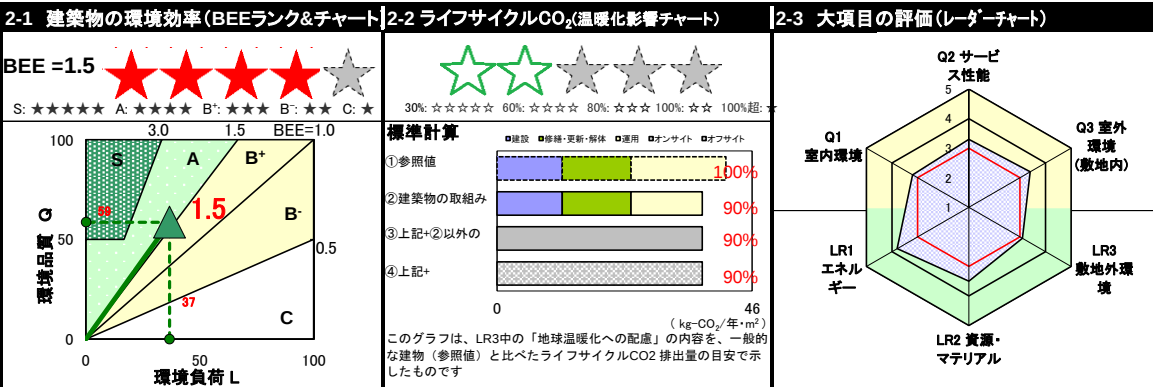


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	時習館高等学校併設中学校(仮称)校舎	階数	地上2階
建設地	愛知県豊橋市富本町字国福20-2 他6筆	構造	RC造
用途地域	指定なし	平均居住人員	688 人
気候区分	7地域	年間使用時間	2,920 時間/年
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2026年8月 予定	評価の実施日	2024年8月29日
敷地面積	2,988 m ²	作成者	株式会社日総建
建築面積	1,074 m ²	確認日	2024年8月30日
延床面積	2,098 m ²	確認者	株式会社日総建



3 重点項目	
①地球温暖化への配慮	③敷地内の緑化
3.4	3.0
②資源の有効活用	④地域材の活用
3.2	1.0

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮

LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用

Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性

LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化

Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}}$ × 100

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}}$ × 100



CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き			■使用評価マニュアル		CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き	
CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き			■評価ソフト		CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI	
スコアシート			実施設計段階			
建築物の環境品質			重点項目		環境配慮設計の概要記入欄	
記載項目			評価点		評価点	
Q1 室内環境			評価点		評価点	
1 音環境			0.1	3.4	0.15	-
1.1 室内騒音レベル			3.0	3.0	0.40	-
1.2 遮音			0.4	3.6	0.40	-
1 開口部遮音性能			3.0	3.0	0.30	-
2 外壁遮音性能			3.0	3.0	0.30	-
3 天井遮音性能(軽重量断熱)			4.0	0.20	-	-
4 天井遮音性能(重量断熱)			5.0	0.20	-	-
1.3 吸音			4.0	0.20	-	-
2 気密環境			0.3	2.6	0.35	-
2.1 室温制御			0.3	3.1	0.50	-
1 室温			3.0	3.0	0.60	-
2 外皮性能			3.0	3.3	0.40	-
3 ソーン別制御			3.0	3.8	-	-
2.2 湿度制御			3.0	1.0	0.20	-
2.3 空調方式			3.0	3.0	0.30	-
3 光・視環境			0.3	3.2	0.25	3.2
3.1 昼光利用			0.3	4.2	0.30	-
1 昼光率			3.0	5.0	0.60	-
2 方位別開口			3.0	3.0	0.40	-
3 昼光利用設備			0.3	2.0	0.30	-
3.2 グレア対策			0.3	2.0	1.00	-
1 昼光制御			3.0	4.0	0.15	-
3.3 照度			3.0	3.0	0.25	-
3.4 照明制御			0.2	4.1	0.25	-
4 空気環境			0.3	4.0	0.50	-
4.1 汚染対策			0.3	4.0	1.00	-
1 化学汚染物質			3.0	5.0	0.30	-
4.2 換気			0.3	3.6	0.33	-
1 換気量			3.0	5.0	0.33	-
2 自然換気性能			3.0	3.0	0.33	-
3 取り入れ外気への配慮			3.0	3.0	0.33	-
4.3 運用管理			0.2	5.0	0.20	-
1 CO ₂ の監視			3.0	5.0	1.00	-
2 喫煙の制御			3.0	5.0	1.00	-
Q2 サービス性能			-	0.30	-	3.3
1 機能性			0.4	3.6	0.40	-
1.1 機能性・使いやすさ			0.4	3.0	0.40	-
1 広さ・収納性			3.0	-	-	-
2 高度情報通信設備対応			3.0	-	-	-
3 バリアフリー計画			3.0	3.0	1.00	-
1.2 心理性・快適性			0.3	5.0	0.30	-
1 広さ感・景観 (天井高)			3.0	5.0	0.50	-
2 リフレッシュスペース			3.0	5.0	0.50	-
3 内装計画			0.3	3.0	0.30	-
1.3 維持管理			0.3	3.0	0.50	-
1 維持管理に配慮した設計			3.0	3.0	0.50	-
2 維持管理用機能の確保			3.0	3.0	0.50	-
2 耐用性・信頼性			0.3	3.1	0.31	-
2.1 耐震・免震・制震・制振			0.4	3.2	0.48	-
1 耐震性(建築物のこれに(き)			3.0	3.0	0.80	-
2 免震・制震・制振性能			3.0	4.0	0.20	-
2.2 部品・部材の耐用年数			0.3	3.2	0.33	-
1 部材材料の耐用年数			3.0	2.3	0.23	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔			2.0	2.3	0.23	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔			5.0	0.09	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔			3.0	0.08	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔			5.0	0.15	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔			3.0	0.23	-	-
2.4 信頼性			0.3	2.8	0.19	-
1 空調・換気設備			3.0	3.0	0.20	-
2 給排水・衛生設備			3.0	2.0	0.20	-
3 電気設備			3.0	3.0	0.20	-
4 機械・配管支持方法			3.0	3.0	0.20	-
5 通信・情報設備			3.0	3.0	0.20	-
3 対応性・更新性			0.3	3.3	0.29	-
3.1 空間のゆとり			0.3	4.0	0.31	-
1 階高のゆとり			4.0	0.60	-	-
2 空間の形状・自由さ			3.0	4.0	0.40	-
3.2 荷重のゆとり			3.0	3.0	0.31	-
3.3 設備の更新性			0.3	3.0	0.38	-
1 空調配管の更新性			3.0	0.17	-	-
2 給排水管の更新性			3.0	0.17	-	-
3 電気配線の更新性			3.0	0.11	-	-
4 通信配線の更新性			3.0	0.11	-	-
5 設備機器の更新性			3.0	0.22	-	-
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.22	-	-
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	3.4
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮			4.0	0.40	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			0.3	5.0	0.30	3.0
3.1 地域性への配慮・快適性の向上			3.0	0.50	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性			-	0.40	-	3.5
LR1 エネルギー			-	0.40	-	3.8
1 建築物外皮の熱負荷抑制			BP5m=0.63	3.0	5.0	0.30
2 自然エネルギー利用			BE5m=0.75	3.0	3.0	0.20
3 設備システムの高効率化			3.0	3.5	0.30	3.5
4 給排水の運用			0.3	3.5	0.20	3.5
集合住宅以外の評価			3.0	3.5	1.00	-
4.1 モニタリング			3.0	3.0	0.50	-
4.2 運用管理体制			3.0	4.0	0.50	-
集合住宅の評価			-	-	-	-
4.1 モニタリング			-	-	-	-
4.2 運用管理体制			-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	3.5
1 水資源保護			0.1	3.4	0.15	3.4
1.1 節水			3.0	4.0	0.40	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			0.8	3.0	0.60	-
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.67	-
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.33	-
2 非再生性資源の使用削減			0.3	3.3	0.63	3.3
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.07	-	-
2.2 既存建築物等の継続使用			3.0	0.24	-	-
2.3 部材材料におけるリサイクル材の使用			3.0	3.0	0.20	-
2.4 部材材料以外におけるリサイクル材の使用			3.0	3.0	0.20	-
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	2.0	0.05	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			3.0	5.0	0.24	-
3 廃棄物発生材料の使用削減			0.2	4.0	0.22	4.0
3.1 有害物質を含む材料の使用			3.0	4.0	0.32	-
3.2 フロン・ハロンの回収			0.4	4.0	0.68	-
1 消火剤			-	-	-	-
2 発泡剤(断熱材等)			5.0	0.50	-	-
3 冷媒			3.0	3.0	0.50	-
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	3.1
1 地球温暖化への配慮			3.4	0.33	-	3.4
2 地球温暖化への配慮			0.3	2.8	0.33	2.8
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-
2.2 熱環境悪化の改善			0.3	2.5	0.25	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-
1 雨水排水負荷低減			3.0	0.25	-	-
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-
3 交通負荷抑制			3.0	0.25	-	-
4 廃棄物処理負荷抑制			1.0	0.25	-	-
3 周辺環境への配慮			0.3	3.1	0.33	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			0.4	3.0	0.40	-
1 騒音			3.0	1.00	-	-
2 振動			-	-	-	-
3 悪臭			-	-	-	-
3.2 風害・砂塵・日照障害の抑制			0.4	2.6	0.40	-
1 風害の抑制			3.0	0.60	-	-
2 砂塵の抑制			1.0	0.20	-	-
3 日照障害の抑制			3.0	0.20	-	-
3.3 光害の抑制			0.2	4.4	0.20	-
1 光害の抑制(敷地内・敷地外の両方に係るもの)			5.0	0.70	-	-
2 近隣の建物・施設・緑地等(グリーン)への配慮			3.0	0.30	-	-

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新編)2016年版+あいも版手引き

時習館高等学校併設中学校(仮称)校舎

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点		全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策					3.4
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.4	0.10	3.2	
② 資源の有効活用					
Q2-2	耐震性・信頼性	3.1	0.09		
Q2-3	対応性・更新性	3.3	0.09		
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.3	0.19		
③ 敷地内の緑化					3.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.09	外構緑化:10%/建物緑化:0%	
④ 地域材の活用		(評価ポイント)			1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし	
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし	

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 時習館高等学校併設中学校(仮称)校舎

計画上の配慮事項	
総合	室内・室外環境やサービス性能に配慮している。 ノンフロン断熱材を採用している。
Q1 室内環境	吸音に配慮している。 発生源対策や換気や喫煙の制御など空気質環境に優れている。
Q2 サービス性能	広さ感・景観や内装計画を行っている。 空間のゆとりを配慮している。
Q3 室外環境(敷地内)	景観への配慮を行っている。
LR1 エネルギー	省エネルギー性能に配慮している。
LR2 資源・マテリアル	有害物質を含まない材料の使用に配慮している。 発泡剤を行っている。
LR3 敷地外環境	光害の抑制について、チェックリストの項目が過半を満たす、広告物照明を行っていない。
その他	特に無し。